

未来をつくる 深谷の進学先

生徒が主役の活動を全面的に支援し、
地域とともに、心豊かな人材を育成する学校

埼玉県立深谷高等学校

学校の概要・特色

- ・1学年は1学級30人程度の少人数クラスとし、生徒一人ひとりに丁寧に向き合います。
- ・全国大会優勝経験のある男子バレーボール部や花園10回出場のラグビー部が現在も健在で、各部活動を牽引しています。その他の部活動もそれぞれの目標に向かい、努力を重ねています。
- ・学校行事は、できる限り生徒による自主運営としていきます。生徒会役員を中心に、文化祭、体育祭、球技大会、予餞会などすべての運営を行います。また、地元自治会の夏祭り、吹奏楽部による市立保育園などでのハピネスコンサートなど、生徒の社会貢献にも力を入れています。



▲体育祭



▲ハピネスコンサート

主な進路先

東洋大学、日本大学、日本体育大学、国士舘大学、大東文化大学、武蔵大学、東京電機大学、立正大学、埼玉県立高等看護学院、埼玉理容美容専門学校、大宮国際動物専門学校、赤城乳業株式会社、株式会社UACJ、株式会社LIXILサンウエーブ製作所ほか

トピック

高等学校DX加速化推進事業

文部科学省は、高校段階におけるデジタル人材等成長分野を支える人材育成を進めており、本校は令和8（2026）年度から『高等学校DX加速化推進事業（DXハイスクール）』の指定を受けました。そして、令和9（2027）年度入学生から『情報Ⅱ』を必修化するとともに、データサイエンスやAI活用などを柱とした『新たな学び』をスタートします。現在、専用特別教室『DXラボ（仮称）』等の設置を進めています。



▲DX学校説明会

ラグビー部創部50周年記念式典

創部50年を迎えるラグビー部は、9月6日に記念式典並びに祝賀会を開催しました。当日は多くの関係者が集まり、これまでの歩みを振り返る機会となりました。そして、その後継者である現役生徒は、『令和8年度第80回国民スポーツ大会少年ラグビーフットボール大会埼玉県予選』で優勝しました。この勢いに乗って11回目の花園出場を目指します。



▲ラグビー部

埼玉県立深谷高等学校

住所 〒366-8515
宿根315
電話 572 - 1215（代表）



▲高校インスタグラム



▲高校ホームページ



知っていますか？ 障害者手帳

障害者手帳とは、何らかの障害によって自立が困難な方や日常生活に支援を必要とするかたに対し交付される手帳で、『身体障害者手帳』『療育手帳』『精神障害者保健福祉手帳』の3つの種類があります。障害者手帳を取得すると、その種類や等級に応じた各種福祉サービス（医療費助成や手当、自動車等燃料費の補助、居宅介護など）や、各種割引制度、就労に向けた支援などを利用でき、生活の幅が広がったり、社会参加しやすくなったりするメリットがあります。

手帳名	身体障害者手帳	療育手帳	精神障害者保健福祉手帳
内容	身体障害者福祉法に定める障害程度に該当すると認定されたかたに交付	知的障害があると判定されたかたに交付	一定程度の精神障害の状態にあることを認定されたかたに交付
等級	1～6級	①（最重度）～C（軽度）	1～3級 ※有効期間2年
手続き	指定医が記入した身体障害者手帳用の診断書を持参し、障害福祉課（市役所本庁舎7番窓口）または各総合支所市民生活課へ	母子健康手帳、成績通知書などを持参し、障害福祉課（市役所本庁舎7番窓口）へ ※書類作成のための聞き取りを行うため、できる限り本人と幼少期の様子が分かるかたが来庁してください。	かかりつけ医が記入した精神障害者保健福祉手帳用の診断書または障害年金証書などを持参し、障害福祉課（市役所本庁舎7番窓口）または各総合支所市民生活課へ

図障害福祉課 ☎ 571 - 1011、FAX 574 - 6667

第7話

二高時代の敬三



立志と忠恕の後継者

敬三物語

敬三は、東京の第一高等学校（以下、一高）へ進みました。敬三は「僕は東京生まれだから、一度は地方の生活をしばらく置いた方がよかつた。」と考えたのです。また、（敬三が中学生の頃）いとこ仲の良かった穂積貞六郎と阪谷希一との旅行中に仙台で下車して2人が通っていた二高の校舎などを見て回りました。この時に敬三は、高校は二高に行くことを決めました。二高には小学校以来の親友である宮本璋や宇都宮出身の鈴木醇がいて、2人とも博物学に興味とし、敬三も馬が合いました。そのため、3人で郊外へ出かけ、

化石や昆虫など採集して研究を重ねました。敬三は「3人が一つ心で同感し喜び合っていたのは、どんなに小さな虫でも草でも、これを探集した当時の実感に、懐かしい思い出を走らせ合うことであつた。」と言います。敬三が後年、農村の暮らしに目を向けるようになったのは、この二高時代の経験からです。東北の農村を訪ね、人々の生活に触れ関心を抱きました。こうして民俗学に興味を持ったのも東北の生活を経たからです。また、敬三が母校である二高と東北をこよなく愛していたことは、新婚旅行先に東北を選んだことから読み取れます。



▲大正7（1918）年の第二高等学校（『柏葉拾遺』（柏窓会1956年）所収）

※穂積家は栄一の長女歌子の、阪谷家は栄一の次女琴子のそれぞれ嫁ぎ先